

討論メモ

「Pandemic の正体 ウイルスとワクチンの歴史」

令和 3年10月19日

1. 10月には表題について考えてみました。最初に森田より、掲載済みの資料に基づいて、下記項目についての説明がありました。

- ① ウイルスの分類
- ② 公衆衛生の歴史
- ③ ウイルス発生の歴史
- ④ ワクチンの製造
- ⑤ ファウチ博士
- ⑥ イベルメクチン
- ⑦ Pandemic とは何か
- ⑧ その他

a. 過去百年の歴史を振り返ると、公衆衛生、とりわけウイルスとワクチンの研究・開発は、ロックフェラーやロスチャイルドなどの大資本が誘導してきている。

b.過去の歴史を見ると、今回の COVID-19 の発生、蔓延と酷似したウイルス蔓延の事例が繰り返し発生している。

c. 今回のコロナ騒動は、巨大なワクチンビジネスを念頭にした、人為的操作によるトライアンドエラーの一環とみる見方が欧米を中心に広がってきている。

2. 引き続き出席者 8 名による自由な討論に入り、下記のような意見が出されました。

・過去百年の歴史を見ると、ウイルスとワクチンの研究は大資本が先導してきているが、同じような経緯でのウイルス発生が繰り返されている。

・ウイルス研究所では、ウイルスの弱毒化の研究が繰り返されてきた形跡がある。

・ウイルスは致死率が高いと蔓延しない。逆に致死率が低く、感染しても発症しないで、元気で飛び回る人が大勢いると蔓延する。

→ウイルスは弱毒化させると蔓延の危険が高まる。

・ワクチン開発には通例 2-3 年を要するが、今回は半年程度という異例の速さで開発され、また、仮承認で使用に踏み切った。

・今回のワクチンビジネスは 1 兆ドルといわれており、戦争ビジネスを上回る巨大ビジネスともいわれる。

・ワクチンは健康な人を含めて全員に打たせるので、治療薬よりはるかに大きなビジネスになる。

・現在の大手ワクチンメーカーはいずれもロックフェラーやロスチャイルドなど大資本の系列製薬メーカーである。

・日本にも、緒方洪庵や後藤新平など果敢に感染症と戦ってきた偉人がいるのに、現在の対応は手ぬるいのではないか。

・今回は危機管理の甘さが露呈され、よい経験になった。強制力を伴った法改正を含めて対応を検討してほしい。

・日本ではワクチンも治療薬も開発が遅れている。安全保障上極めて深刻な問題だ。

・日本では、ウイルスは生物兵器につながるとして研究が抑えられてきた面があるが、今回の教訓から国産能力を整えておく方向に舵が切られることを期待したい。

・日本でのワクチン開発が遅れている理由として、欧米では経験した COVID-

19 の仲間である SARS, MARS を日本では経験しなかったためとする説もある。

- ・今なぜ感染者が減っているのか、よくわからないので、今後の心配だ。
- ・マスコミの報道が危機を煽っている。
- ・マスコミの数字の出し方がおかしい。他国と比して、感染者も死者も極めて低いことなど、国民に過度の恐怖を与えない報道も出来る筈だ。
- ・日本の場合、犠牲者数はインフルエンザよりも少ない程度だが、インフルエンザとの比較も報道されない。
- ・日本の報道番組のキャスターといわれる人たちが頼りない。
- ・報道に惑わされずに、視聴者それぞれがエビデンスを自分で探して、判断する姿勢が必要だ。
- ・今までは、平穏無事な人生だったが、年を取ってから今回の試練に見舞われた。あと十年は生きて結末を見届けたい。

- ・リヤマやアルパカの抗体液を利用した治療薬の開発も進んでいる。

- ・COVID-19 を致死率の高い危険な感染症の仲間として 2 類に分類したままだ。

インフルエンザ並みの 5 類に分類し直せば、一般病院でも対応できるようになって、医療体制の崩壊の問題は解決する。何故、政府は 5 類に分類しないのだろうか。

- ・医師会が 5 類に移すことを反対しているが、それだけが理由とは思えない。

外国からの圧力もあるのだろうか。

- ・現在はコロナ関連は国家が医療費を負担しているが、5 類にすると自己負担になるとの説もある。

- ・コロナと判明した段階で国家負担にする対応もとれる。

- ・インフルエンザも自己負担だから、5 類にするならコロナも自己負担でよいのではないか。

- ・小さな病院長が 5 類にすべきと訴えているのを TV で見たことがあるが、5 類か、2 類かの問題をマスコミが取り上げたのは他には見たことがない。

・なぜ、5類か、2類かのオープンな議論をしないのか、なぜマスコミは取り上げないのか、不思議だ。

以上